

幼保連携型認定こども園 西神戸 YMCA 保育園 12 月えんだより

12 月聖句：「ひとりの男の子が私たちに与えられた。」

<イザヤ書 9 章 5 節>

急に寒さが増してきました。冬の訪れを感じると共に、テレビではクリスマスのコマーシャルが頻繁に流れるようになりました。寒さの中でも夢中に遊び、元気に過ごす子ども達は、これから年末にかけての楽しい出来事を心待ちにすることでしょう。

小さくて、弱い者に価値をおくイエスは、幼な子を抱いて祝福する姿が、たくさん聖書の中に示されています。イエスから離れ、逃げて、隠れる弟子達にも「平和があるように」と祈られて、彼らと共に食事をする姿も伝えられています。今月の聖句を書いたイザヤは、貧困と災禍に怯える人々に「赤ちゃん」が生まれて、「平和の君」となると預言し、その 700 年後に飼い葉桶に寝かされた赤ちゃんの誕生が実現したのです。これがイエスの誕生であり、クリスマスの出来事なのです。

敗戦後の日本の中でも、特に広島、長崎、沖縄には、世界から今でも小さな折り鶴が寄せられて、平和を祈る慣習が続いていると言います。又、東日本大震災の被災地には、震災直後、ある国から子ども達の絵が送られてきました。それは、日本から戦禍で荒廃した母国に自然を取り戻すために木々の種（オリーブの木等）や生活する資金が届けられ、少しずつ緑が増え、町が復興していく様子を描いた子ども達の絵でした。そして、この関係が長く続くようにと願い、やがて平和を祈る「凧あげ」を 3 月 11 日に同時に行う活動へと拡がりました。その送り主の国こそ、パレスチナ、ガザ地区に住む子ども達からの贈り物だったのです。今、その子ども達の頭の上は、凧ではなく、命を脅かすミサイルが飛び交っていると思うと本当に心が痛みます。

神様の憐れみは、ひとりの幼子、全く無防備なひとり子の誕生により示されています。人がそのことを知り、共に歩み、平和を生きるためには、敵意、争い、妬み、憎しみ、不和、傲り、貪欲の全てを棄てる必要があることを、ひとりの幼子の誕生は物語っています。子ども達は、愛される権利があり、守られる権利があります。神様は、力には力ではなく、権威を振りかざして、支配しようとしたのでもなく、私達が思わず頬擦りしたくなるような、小さな弱い存在の赤ちゃんとして、生まれてきてくださいました。私たちはそこに平和や和らぎ、愛、恵みを感じます。すべての子ども達に神様の平和がありますように。

年主題 「ともにつむぎだす」～希望の中で～

12 月	乳児（0,1,2 歳児）	幼児（3,4,5 歳児）
月主題	うれしいね	喜び合う
月の願い	* クリスマスを迎える雰囲気を楽しみ、喜んで待つ * 保育者や友だち、家族と一緒にクリスマスを楽しむ	* クリスマスの意味を知り、喜びをわかちあう * いろいろな人のことを思い、自分ができていることを考える * 心を合わせて表現することを楽しむ
	おほしがひかる	きよしこのよる<こども改 74>